

2018年10月 (No.352)

主な内容とページ

本格化した生き残り競争、半導体商社	1
利益率は小幅な改善	2
低収益の半導体販売	2
海外子会社が示す低収益	5
続行する半導体商社のトップ争い	6
商社の再生に動く投資ファンド	9
売上増だが、利益厳しいアジア市場	12
コンテナ革命(SRL だより)	14

本格化した生き残り競争、半導体商社

半導体商社の生き残り競争が本格化してきた。

1. 半導体ブーム下で関連商社の業績は改善したが利益面を主体に全体では低調。業界再編、市場構造の変化に応じられる抜本的な対策が重要になってきている。
2. 関連上場商社は、とくに風当たりが強く、加賀電子、ソニー系商社が相次ぎ統合を決定。売上トップをめざした競争が本格化してきた。
3. 商社再編は、今後も続行。業績が低迷しているところがふるい落とされ、成長力と収益を競い合う活気ある分野に生まれ変わるか、正念場を迎えている。

コンテナ革命

『英首相ハロルド・マクミランは、ストライキの恐れに直面した62年に嘆息混じりに「港湾労働者というのは、度しがたい(略)。貴族院議員と同じで知性はいらぬらしい」*』。かつては沖仲仕による港湾ストが世界的に話題になったが、70年代にコンテナが普及、その仕事はクレーンに置き換えられ、海運コストが劇的に下がった。

人気のバービー人形は59年には日本で作られたが、90年代になるとアメリカから送られてきた型を使ってナイロン製の髪の毛は日本、ボディの樹脂は台湾、染料はアメリカ、木綿は中国と多国籍になり、これはコンテナがもたらした輸送革命の産物という。世界から効率的にモノを集め、中国で生産、世界で販売されている。

アメリカと中国、それぞれの国旗が描かれたコンテナが真正面から激しくぶつかる挿絵で米中貿易戦争を紹介する新聞。コンテナはグローバル化の支え役かもしれないが、様々な格差、不均衡など歪ももたらした。しかし、揺り戻しはあっても大きな流れを変えることは出来ないと思う。コンテナを凌駕するものが出て来ない限り。

(大竹 修)

*「コンテナ物語」マルク・レビンソン著、村井章子訳(世界を変えたのは「箱」の発明だった)2007年1月、日経BP社から引用

本誌の内容一覧、索引は、SRL(半導体総合研究所)ホームページをご利用ください。

<http://www.semiconresearch.co.jp/>

この資料の複写、複製その他電子的な方法等によるいかなる形での複写利用をお断りします。この資料は公開されている文書および、社会的に信用ある企業、団体等の責任者によって公開された情報をSRL(半導体総合研究所)の解釈と分析で表現したものです。

2018年 著作権所有 SRL(半導体総合研究所)

SRL Monthly Report

2018年10月(毎月1回発行)第29巻10号(通巻352号)

発行元:株式会社 SRL
〒188-0014 東京都西東京市芝久保町 3-1-35
TEL 042-439-5317 FAX 042-439-5023
編集・発行人/大竹 修

SRL Monthly Report

October 2018, No.352

Semicon Research Ltd.
3-1-35 Shibakubo-Cho, Nishitokyo-City, Tokyo 188-0014
Japan Mail: info@semiconresearch.co.jp
Publisher/Editor Osamu Ohtake

© (株)SRL 2018

購読料金1年分(12号)98,000円(税別)